令和3年度　東条学園小中学校　学校評価（年間）

（ ）内は中間評価

評価の観点	評価項目		実践目標と成果	評価		
生きてはたらく学力	1 基礎基本の確実な定着・学びに向かう力	実践目標	児童生徒が「学習の見通し」を持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を「振り返り(チェックすることで)」、次につなげる見通しをもった授業を実施する。	教職員	児童生徒	保護者
		成果	「ねらい」と「振り返り」を設定した授業が適切に実施されている。	3.3 (3.2)		
		課題と方策	今年度実施を見送った授業公開を来年度教科間、ステージ間で実施できるよう、実際の授業を基に研修する機会を計画を進める。			
		教職員（学校）は、授業のはじめの「ねらい」や授業展開での「学習の見通し」、授業おわりの「振り返り」のある、わかりやすい授業を工夫している。			3.6	3.5
	2 思考力・判断力・表現力の育成	実践目標	「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の視点に立った授業改善を図る。	教職員	児童生徒	保護者
		成果	2学期を中心に今必要な授業改善について考えることができた。教員提案・実践レポートを通じてそれぞれの教員が考える授業改善を集約できる見込みである。	3.1 (3.0)		
		課題と方策	提出された提案・実践レポートを基に、具体的に改善するポイントを共通理解して取り組めるよう計画を進める。			
		教職員（学校）は、ペアやグループでの学習も取り入れながら、より深く考えたり意見を交換したりするような指導をしている。			3.6	3.5
	3 ICT活用指導力の向上	実践目標	ICT機器を活用して、より楽しく、わかりやすい授業づくりに努める。	教職員	児童生徒	保護者
		成果	gooleクラスルームやジャムボードを活用し、児童・生徒が意見を出して交流する機会が増えてきた。また、googleミートを使った学園祭の配信、フォームを使って選挙の投票など、学校行事にも活用することができた。	3.5 (3.4)		
		課題と方策	今後更に機器の活用をし、深い学びにつなげるために、授業で活用した実践事例を職員間で共有していくようにしたい。また支援員から、オクリンク等の使用事例を教えていただく機会を増やしたい。			
		教職員（学校）は、ICTを活用して、より楽しく、わかりやすい授業づくりをしている。			3.7	3.3
他者とつながる力・他を思いやり、互いに高め合う心	4 体験活動等の充実	実践目標	学園会の中央委員が中心となって、体育大会、学園祭等の学校行事を企画・運営することで、学園生の自治能力を育成する。	教職員	児童生徒	保護者
		成果	体育大会に向けて、中央委員・体育部長を中心とした実行委員が、前期課程によさこいを指導しに行くなど、生徒主体での練習をすることができていた。また、学園祭では中央委員と文化広報部委員が協力しながら、スローガンの決定、看板の作成、当日の司会進行などを行うことができた。	3.4 (3.4)		
		課題と方策	前に立つ生徒が自信を持って活動できるよう、今後も準備・練習の支援を続けていく。また、練習の運営だけではなく、学校行事当日の運営について、生徒主体で計画させるなど、実行委員を中心とした自治活動をさらに充実させていく。			
		教職員（学校は）、児童生徒に役割を与えたり、事前事後も含めて達成感を味わえたりするような体験活動指導をしている。（体育大会・学園祭・「トライやる・ウィーク」・自然学校等）			3.6	3.6
	5 道徳教育の充実	実践目標	自分の問題として「よく考え」、その考えをより深めていくために級友と「議論する道徳」をめざした授業づくりを推進する。	教職員	児童生徒	保護者
		成果	年度当初の共通理解事項を基に、ローテーション授業などをはじめ、各学年で実態に合わせた取り組みを工夫して目標に迫れた。	3.0 (2.9)		
		課題と方策	学園の環境を生かしたステージ間での授業公開を積極的に進め、実践目標に迫る授業研修を適切に設定、計画する。			
		教職員（学校）は、「私たちの道徳」等も活用しながら、級友等と論議することで、豊かな心を育成するための指導をしている。			3.6	3.4
	6 平和学習	実践目標	つなぐ学校行事を通して、平和な状態を維持するためにどうすれば良いかを学ばせる。	教職員	児童生徒	保護者
		成果	実行委員を中心に学習計画やセレモニーの企画などを行うとともに、事前学習で戦争について学んだ。修学旅行・広島校外学習では、実際に戦争遺構や語り部の思いを見聞し、戦争の悲惨さや大切さを実感として理解することができた。9年生は、学園祭で発表することで学びを発信できた。	3.3 (3.2)		
		課題と方策	平和学習のねらいを共有し、広島校外学習から修学旅行へのつながりを意識した活動を行う。具体的には、9年生が修学旅行後に6年生へ学んだことや思いを伝える活動の場を設定する。また、6年生は5年生への発表の機会を作り、学んだことを発信する。			
		教職員（学校）は、平和について考える機会を設定し、平和な状態を維持するためにどうすれば良いか指導している。（9年 鹿児島修学旅行、6年広島校外学習等）			3.4	3.5
健康な心身安全意識	7 健康や体力の増進	実践目標	系統的な体幹トレーニングを実施し、体力・運動能力の向上や正しい姿勢を身に付けさせ、けがの予防に努める。	教職員	児童生徒	保護者
		成果	体育授業や部活動で、体つくり運動や体幹トレーニング等を実施し、体力・運動能力の向上に努めることができている。その結果、大きなけがの予防ができた。	3.2 (3.1)		
		課題と方策	新体力テストの結果を踏まえ、授業や部活動等で年齢に応じた体幹トレーニングや体つくり運動を行うことで、運動能力の向上とけがの防止に努める。			
		教職員（学校）は、保健体育の授業や部活動を通して健康や体力の向上のための指導をしている。（体育大会・マラソン大会等を含む）			3.7	3.6
	8 健康な心身の育成	実践目標	定期的な困ったことカードや教育相談の実施により心のケアの充実に努める。	教職員	児童生徒	保護者
		成果	児童生徒の悩みに教師が共通理解のもと、予防と対応を行うことができた。また、SC、SSWとの連携を図ることができた。	3.5 (3.4)		
		課題と方策	SC、SSWとの連携を図り、定期的に生徒指導委員会を開催し、教職員の共通理解をより一層図る。			
		教職員（学校）は、日常生活や教育相談等で、親身になって話を聞いたり相談にのってくれたりしている。（学習計画帳点検、悩みアンケート、日常的な教育相談、教育相談週間、スクールカウンセラーによる相談等）			3.4	3.3
	9 危機管理の充実	実践目標	保護者や関係機関と連携した交通立ち番指導や交通安全教室等を実施する。	教職員	児童生徒	保護者
		成果	関係機関と連携し、交通安全教室や交通立ち番指導、新通学路の確認を実施したことで、通学時の危険箇所等の確認ができ、事故防止が図れている。	3.4 (3.1)		
		課題と方策	重大事故の発生を防止する意識をさらに高める必要がある。日常の交通マナーの遵守や新通学路における安全な登下校について指導する。			
		教職員（学校）は、交通事故等がないように安全安心を確保するための指導をしている。（交通安全教室・集会やホームルームの話、登下校指導等）			3.7	3.5

評価の観点	評価項目	実践目標と成果		評価		
心通う集団づくり、積極的な生徒指導	10 教師の協働した指導や支援	実践目標	SCやSSWを含めた校内学園生の支援体制(ケース会議や学年会議)を充実させ、福祉・医療機関等と積極的な行動連携を図る。	教職員	児童生徒	保護者
		成果	養護教諭と連携し、保健室に来室して気になる児童生徒をSCにつなげることができた。定期的に生徒指導委員会を開いたが、SCやSSWの勤務日以外の日に開かれることがあったため、個別に情報共有や相談をすることができた。保護者とカウンセラーとの面談前に児童観察を行い、子どもの姿を通してカウンセリングを実施することができた。	3.4 (3.3)		
		課題と方策	毎月1回の生徒指導委員会(第1木曜日)が予定の日以外にに開かれることがあったため、委員会の日の事前調整を早めに行う必要がある。年度の後半に相談件数が増えるため、SCやSSWとの綿密な連携が必要である。			
	11 児童生徒の内面理解と人間関係づくり	実践目標	QUテスト等を利活用して、児童生徒の内面理解に努め、構成的グループ・エンカウンター等を活用した人間関係づくりを計画的に実施する。	教職員	児童生徒	保護者
		成果	2回目のQUテストを活用して、児童生徒の内面理解に努め、来年度の学級編成時に生かせる流れを作れた。	3.4 (3.2)		
		課題と方策	HRなどで構成的グループ・エンカウンター等を活用した人間関係づくりの取り組みができるよう計画を進める。			
			教職員は(学校は)、児童生徒をよく理解し、「3つのステージのつながり」のある集団をつくろうとしている。(体育大会、学園祭、QUテスト、縦割り活動、学園会活動等)		3.5	3.4
	12 ネットトラブル等の課題の克服	実践目標	ネットトラブル等の人権課題を克服するため、市内統一のネット・SNS利用規約を児童生徒が遵守できるように改訂する。	教職員	児童生徒	保護者
		成果	長期休みのしおりや掲示板に掲載するなど、ネット規約の啓発活動を活発に行うことができ、児童生徒の意識は高まった。	3.1 (3.1)		
		課題と方策	保護者、児童生徒向けの情報セキュリティー講演会の充実を図り、啓発活動をより一層充実させる。			
			教職員は(学校は)、ネットトラブル等に巻き込まれないように、指導をしている。(道徳、集会時の話、情報教育講演会、SNSルール等)		3.7	3.4
特別支援教育	13 一人一人の教育的ニーズに応じた適切な支援	実践目標	個別の教育支援計画等の見直しを実施し、本人・保護者の願いを中心に据えてライフステージに応じたきめ細かく適切な支援を行う。	教職員	児童生徒	保護者
		成果	サポートファイルの個別の指導計画、個別の支援計画作成について保護者と共通理解を図り見直しを進めるとともに、継続した支援を必要とする児童生徒に向けての新規サポートファイル作成が進んだ。	3.3 (3.4)		
		課題と方策	サポートファイル作成にあたって、目標設定や個別の支援計画の内容を充実させるために、担任、担当教員に向けての具体的かつきめ細かな研修が必要である。			
			教職員は(学校は)児童生徒の内面理解に努め、一人一人の特性に応じた支援や指導をしようとしている。(家庭訪問、三者面談、ユニバーサルデザイン、サポートファイル、通級指導等)		3.6	3.4
	14 交流及び共同学習の推進	実践目標	交流学級や他校児童生徒との交流及び共同学習を充実させる。	教職員	児童生徒	保護者
		成果	学園在籍児童生徒への個々に応じた対応により、行事や交流学級での活動に自信をもって取り組めたり、自分の役割を果たしたりできた。また、北はりま支援学校、県立視覚特別支援学校在籍児との交流会を実施し、交流を深めた。	3.3 (3.2)		
		課題と方策	友達と交流する中で、自分の思いや助けてほしいことを言葉で伝えられるように、自分の行動を客観的に振り返ることができるよう支援をする。前期と後期、市内支援学級、市外支援学校との交流を進める。			
	15 切れ目のない生徒支援	実践目標	加東市発達サポートセンター「はぴあ」と連携した切れ目のない児童生徒支援・家庭支援を行う。また、デリコラ(巡回相談)等を積極的に活用する。	教職員	児童生徒	保護者
		成果	発達検査や教育相談等が必要な児童生徒と関係機関をつなぐことができた。また、支援の方法について指導を受け、保護者と共有しながら指導に生かすことができた。就学に際しての園児の情報を共有し適切な就学指導につなぐことができた。	3.5 (3.3)		
		課題と方策	児童生徒の困り感が軽減できるよう、引き続き関係機関に相談しながら支援方法を検討し、実践していく。前期と後期のスムーズな引継ぎと支援が行えるよう指導体制を整える。			
保護者・地域との連携	16 PTA活動の充実	実践目標	機動的なPTA活動を通して、学園生の健全な成長を見守り支える体制づくりを整える。	教職員	児童生徒	保護者
		成果	各委員会の委員長を中心として、自主的な活動が行われた。	3.0 (3.0)		
		課題と方策	従来のPTA活動の体制を変えていくには、教師・保護者の意識改革が必要である。さらに、保護者の主体性を重視しながら、機動的なPTA活動を実施していく。			
	17 地域との協働	実践目標	地域住民等の委員が学校運営に参画する学校運営協議会を設置する。	教職員	児童生徒	保護者
		成果	登下校の見守り活動や地域に学ぶ体験活動等において、地域住民の協力を得られている。	3.4 (3.3)		
		課題と方策	学園生と地域住民のコミュニティを一層深める必要がある。学校協働本部との連携を進めることで、連携の充実を一層図りたい。			
働きやすい職場環境づくり	18 児童生徒と向き合う時間の確保	実践目標	学校の業務内容を見直し、効率化を図ることで、児童生徒と関わる時間を確保する。	教職員	児童生徒	保護者
		成果	職員会議を学校運営委員会に置き換えたことにより、会議の時間短縮につながっている。	3.1 (3.0)		
		課題と方策	学校運営委員会に皆の意見を吸い上げて、反映させる必要がある。また、学校運営委員会を全体に伝える時間を統一してとる必要がある。			
	19 定時退勤日	実践目標	留守番電話の設置や毎週1回の「定時退勤日」を保護者等へ周知することにより、教職員の共通理解のもと働き方改革の確実な実施を図る。	教職員	児童生徒	保護者
		成果	学年総務を中心とした職員相互の呼びかけにより、「定時退勤日」に対する意識が高まった。	3.5 (3.2)		
		課題と方策	生徒指導や保護者対応などで完全実施できない日があった。 できなかった人は、別日に必ず定時退勤日を設定するなど働き方改革を推進する。			
	20 ノー部活デー	実践目標	部活動の練習計画表を校内に掲示することで、学園生や教職員に周知を図り、「ノー部活デー」を確実に実施する。	教職員	児童生徒	保護者
		成果	ノー部活デーの取り組みは、学園生や教職員に周知され確実に達成でき定着している。	4.0 (4.0)		
		課題と方策	生徒のゆとりある生活の確保と教職員の多忙化軽減につながるように、平日1日、土日どちらか1日のノー部活デー実施について徹底を図る。			